（別紙4）　平成　24　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2790200048		
法人名	JSKホールディングス株式会社		
事業所名	グループホームハッピーライフ		
所在地	大阪市福島区福島4丁目4番14号		
自己評価作成日	平成24年8月10日	評価結果市町村受理日	平成24年11月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ　ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町２－１－８　親和ビル4階
訪問調査日	平成24年8月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

運営方針の「ゆっくり、いっしょに、楽しみながら一人一人のその人らしさを大切にした生活を送る。」というように当ホームでは安らぎと自由を感じられる暮らしをサポートしています。自信を持って頂き、触れ合いと交流を大切に、感情豊かな生活を送れるようにします。ご入居者様にとって、くつろげる空間と信頼関係のある相手がいる「もうひとつの我が家」を目指します。屋上では憩うだけの庭ではなく、皆様が一緒に愉しみながら本当の生活を感じて頂けます。お出かけしない日でも、身近な自然を敷地内で満喫できる「ハッピーライフ」ならではの共用空間が、ご入居者様同士のつながりを深め、思い出も豊かにしてくれます。また、都心に隣接し、近辺には日常の暮らしを支えるショッピング施設をはじめとする生活利便施設が賑わう便利な街です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

都心に隣接した街中に在り、4階層に2ユニットと些か変則的な構造だが、居住性に工夫を凝らし居心地の良さを感じさせる。開所して2年、管理者の経験値（老健・小規模型）を活かしたグループホームへの想いと、それに共感する職員の日々の実践が一つずつ手ごたえとなって、利用者の笑顔に表れているようだ。
大規模他職からの入職や非常勤職の多勢からくる認知症対応へのばらつきを無くし、個別対応に力を注いで「もう一つの我が家」の実現にむけて研修を重ねたいとする管理者。ホーム内で完結しがちな生活を見直し、地域に繋がる地域に開かれた「我が家」づくりをしたいとする職員。
両者の研鑽と努力が、利用者・家族・地域のハッピーライフにつながることを期待する。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、いっしょに、楽しみながら一人一人のその人らしさを大切にした生活を送る。」を実践でき、入居者が安らぎと自由を感じられる暮らしをサポートできるホームにしたいと全職員が共有できるように日々努力している。	地域に在って、地域とのつながりを基に利用者の日々を支えることの意義を理解し、支援に努めている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	福島区民祭り等、福島区の行事には出来る限り利用者と職員が参加している。今後も各コミュニティーセンターと蜜に交流する等して地域とつながりを持ちたい。	ふれあい喫茶に参加、近隣の保育所園児との交流など、日を追って地域とのお付き合いが深まっている。現況に満足することなく、更なる交流と地域貢献も視野に町会等への関与を深めたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状、入居相談や施設見学のみで対応はしているが、地域の方々と認知症の理解や支援方法を伝えたり、勉強会を実施するには至っていない。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、運営推進会議は開催できていない。2ヶ月に1回の開催を目指し、地域の方々と協力し、実践していけるように努めたい。	運営推進会議の開催に向けて努力中である。	運営推進会議の活用が、当ホーム利用者の地域での暮らしを護り、生きることへの支援に必要であることを再認識し、開催への努力を続けることを望む。
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福島区の事業者連絡会に参加し、行政からの連絡を受ける。また、事故等ケアサービスの取り組みを伝え、協力関係を築くよう取り組んでいる。	業務上の連絡、連携については良好な関係が保持されている。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	周囲の環境的に難しい面があり、また安全性を優先して、施錠を行なっている箇所がある。（玄関・エレベーター・内階段・外階段）自由に出れないことについて話し合い、ベランダや窓を開け、閉鎖感を感じないようにしているが、今後も改善できるところがないか検討していきたい。	身体・心への拘束禁止については正しく理解している。施錠の各所については、危険予防を優先した処遇であることは十分に認識しており、共有スペースの解放感づくりに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員間でも話し合いの場を持ち、虐待防止に日々努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の実施はできていないが、日常生活自立支援事業を活用している入居者との関わりを通じて、社会福祉協議会と話をする機会もあり、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、運営規程や利用契約書・重要事項説明書等を明示・説明し、解りにくい点があれば随時お答えし、理解・納得をしてもらっている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	平素より、入居者や家族の方々が気軽に意見や要望をして相談できるよう、良好にコミュニケーションを取ることによってそれを反映できるよう努めている。契約時には、行政への相談窓口等への紹介もしている。	家族とのコミュニケーションが大事としているが、訪問回数の少ない家族との関係づくりには、今後〇〇だより等を媒体とする方法を考慮するなど、一層の努力をしたいとしている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回フロアー会議を実施し、職員の意見や提案を聞く機会を設け反映するように努めている。	非常勤職などのフロアー会議への参加が偏る嫌いがある。連絡ノートなど書面による確認や意見交換には限度があると考える。	開所2年、他職からの職員の経験値を活かして当ホームの目指すものを確かなものにするために、声を集める工夫に期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善制度を活用し、職員の評価や賃金の見直しをしている。また、定期的に個別面談等で意見や要望等を聞き、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のスキルアップの為、各種研修機会の情報提供を行なっている。また、外部研修受講者によるホーム内での情報共有も行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定例である福島区介護ホーム連絡会に参加し、互いにサービスの向上をさせていけるように取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前には必ず本人との面談を行なっている。傾聴等により日常的に相談事などに対処できる雰囲気を作り、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前には家族とも面談を行ない、悩み・ニーズ・サービスへの要望が聞き出せるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活上必要とする支援内容の整理及び初期対応の見極めを行ない、職員で協議し介護計画を立案している。また、他のサービス利用も視野に入れながら対応にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と一緒に生活する事を大切にし、一日の生活の流れに沿って掃除・調理・洗濯等家事全般を共同で行ない、ホームを第2の我が家と思って頂ける対応に努め、共に過ごし学び支え合う関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に入居者の日頃の様子を伝え、家族が気づいた事や要望等を普段からコミュニケーションを取り、話しやすい関係作りに努め、入居者をホームと家族で一緒に支えることを大切にしている。また家族といつでも外出できるように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者や家族から馴染みの場所や人、または生活歴を聞き取り記録し、職員で共有を図る。また介護計画に反映し、馴染みの場所に行く等の援助を行なっている。入居者がこれまで大切にされてきたご友人等が面会や電話等をしやすい環境作りに努めている。	商店街の顔なじみさんと声を掛け合う、行きつけの美容院に同道など、開所2年の時空をがそれぞれの思い出とつながり、利用者の笑顔になっているようだ。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格を理解し、職員が仲立ちしながら話題提供したり、入居者同士がたくさん関わりを持てるように工夫し、孤立しないように一人ひとりに合わせた場の提供を行なっている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在の所、途中退所者はない。不定期ではあるが、電話連絡や手紙で現状を尋ねたり、入院中の利用者に面会に行き、関わった家族や関係機関との関係は大切にするよう務めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で常にコミュニケーションを取り、利用者の希望や考えを引き出すケアに努めている。またカンファレンスやサービス担当者会議を実施し、家族に相談し、スタッフでもその都度検討して対応している。	入居時のアセスメント、生活歴、家族からの情報を活かしながら一人ひとりの、やりたい、やれる、やりたくない、を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、入居者・家族面談、入居後も家族に聞きながら、介護計画を通じて生活歴等の把握に努めている。場合によっては、入居前の在宅や施設等の関係機関にも情報を得たりもしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者の暮らしを観察し、介護計画書や毎日の申し送り、その他個人記録に日々の変化や新しい発見等を残し、全職員が把握、共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を定期的に実施して、入居者の状況や家族や関係者の希望及び今後の方針等を話し合い、必要に応じてカンファレンスを行ない、介護計画を作成している。モニタリングは職員と計画作成担当者にて行なっている。	丁寧なモニタリングを基に、担当職員とケアマネジャーの連携が介護計画に活かされている。2年経過の中から得るものが利用者と家族の安心と信頼に繋がることを期待する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り、個人記録を残し、生活の状況や受診等、些細な変化を細かく記載するように努め、情報共有や介護計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な通院や個別外出・住環境等、入居者や家族の希望に応じてその都度話し合い、柔軟に対応している。必要に応じてインフォーマルな支援を取り入れている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関係医療機関や薬局、地域包括支援センター等と連携を図り、安全で豊かな暮らしができるよう援助している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の内科医が隔週で訪問診療を行ない、その他の週は同クリニックの看護師の訪問で対応している。また、以前からのかかりつけ医の通院や特別な医療機関の受診については、家族の協力を頂き、職員が同行する場合もある。	協力医のオンコール対応や訪問診療があり、外来受診の支援等も適切に行われ、健康管理に不安はないと推察する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	上記の通り、近隣のクリニックの看護師が内科医と交代で隔週で訪問して対応している。入居者の健康チェックと職員へのアドバイスや指導、内科医との連携で支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事前に家族から希望の医療機関を聞いている。また主治医との連携を取り、必要な情報を主治医から医療機関に情報提供してもらっている。入院中は定期的に面会し連携を図るよう務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針は取り決めているが、現状の体制では受け入れは困難である。今後、重度化や終末期の対応について、職員研修や医療機関との連携・調整を行なう必要がある。	開所して2年、比較的軽度の利用者が多い中で、重度化・看取り対応は想定しにくく、関係各位との話し合いもこれからの課題としている。	高齢者の変化には予期しないものがあり、遠からず重度化・看取り対応を要する事態が起こり得るであろう。職員研修も含め、体制づくりに努めることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応マニュアルを整備し、迅速な対応ができるよう備えている。緊急時にも医師・看護師に連絡し、応急手当をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害計画に基づき、日中及び夜間想定の避難訓練を年2回実施している。消防署にも立ち会ってもらい、初期消火訓練等の実施をしている。	規定の避難訓練は行われているが、非常勤職を含めて全員が体験しているとは言い難い。地域との協力体制も今後の課題とする。	4階高層に2ユニットの特殊性を考慮して、複数回の訓練が望ましい。各居室・フロアー等の家具や備品への地震対策と、防災備品への検討も望む。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては常日頃から職員一人ひとりが自覚を持ち、注意している。また職員同士が注意し合える関係作りの強化にも努めている。日常的な支援では、入居者の意向に沿い同性介助も行なっている。	常に年長者への畏敬を持ち、親しさの中に礼節を弁えた言葉・行動で対応することをミーティング等で確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の生活援助の中で、自然に入居者の思いや希望を話せる様なケアに努めている。認知症で意思表示ができない方へは、生活歴等を参考にしながら自己決定が行えるような雰囲気・助言・選択等の働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先するのではなく、主体は入居者にあり、それに対応する人員の配置及び援助ができるように努めている。一日の大まかな流れは決まっているが、一人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔・整髪・髭剃りを毎日の日課とし、着衣等についても入居者の好みを尊重している。毎月、訪問理美容に来てもらい、好みのカットやパーマ・カラー・顔剃り等を楽しめるようになっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前になると、台所から調理の音や食事の匂いにつられ、配膳準備や盛り付け・後片付け、時には調理の手伝いをしてもらい食事を楽しんでもらうよう努めている。	メニュー・食材は配食会社を利用し、各ユニットに調理専任を配置している。お好みメニュー、外食を楽しむ機会が少ないようだ。	誕生日や行事食、季節感を取り戻すメニューをみんなで考えるなど、食べる楽しみについての考慮を望む。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事量や水分量をチェックし記録に残している。食事・水分摂取量の「少ない方については、補食や嗜好品で対応している。また状態を把握して食べやすい調理方法に工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを一人ひとりに応じて実施している。また協力歯科医院による定期健診でチェック・指導を受け、支援を行なっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの観察を行ない、習慣を活かして入居者に合わせた時間で個別に誘導を行ない、状況に合わせた支援をしてトイレでの排泄ができるようにしている。また介護計画にも立案し、排泄の自立ができるような援助に努めている。	紙パンツの数人を除き、あとは布パンツに個々人に適したパットで対応している。パットはまとめて購入し、利用者の費用負担軽減にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り食事や水分摂取等を工夫し、日常的に運動や腹部マッサージを行ない、自然排便ができるよう援助している。排泄チェック表を把握し、状態に応じ医師に相談し、指示をもらうこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望で優先的に入浴して頂いたり、入浴時間や入浴日を変更している。拒否のある方には誘導を工夫したり、時には清拭で対応することもある。入浴剤を使用して季節感を取り入れた入浴も楽しんで頂ける。	午前中に3人ずつ、週2回を基本ベースに、清潔保持だけでなく、お風呂を楽しむ工夫にも力を注いでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には夜間ゆっくり眠って頂けるように、日中活動的に過ごしてもらうよう取り組んでいる。就寝時間や起床時間、居室内の環境等は生活習慣を優先し、個々のニーズに合わせている。また体調に合わせ昼寝等もして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の内容の説明書をファイリングし、職員全員が把握できるようにしている。新たに処方された薬や臨時薬、変更時は申し送りや個人記録に記載、理解できるようにし、その後の症状の変化を観察するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりに応じた能力や生活歴を活かし、興味を持っている事に参加してもらい、役割（掃除・洗濯・調理等家事全般、花の水やり等）を作ったり、嗜好品を提供したりしている。外出では散歩や買い物にも出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の公園やスーパーへの買い物等は日常的に支援され、職員と共に出かけている。家族の協力も受け援助に力を入れている。ドライブ外出をする機会もある。また、ホーム内の屋上庭園に上がって頂き、外出の気分を味わって頂くこともできる。	季節、天候にあわせて個別の、、小人数での外出支援に努めている。プランターに植えられた季節の野菜や花のある屋上での外気浴は、利用者と職員との良い関係づくりにも役立つことを期待する。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に出かけた時には能力に応じ、支払いをお願いしたり、購入物を選んで頂いている。常時お金の所持を希望される方には、少しではあるが、現金を持って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が電話をかけたいと希望した時や家族等からの電話は取り次いでいる。手紙も本人希望や声掛けにて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には観葉植物や花を置いたり、毎月の創作活動で入居者が作った貼り絵等を壁面に飾り付け、季節感を出すようにしている。心地よく生活できるように光や室温調整等に気配りをし、吹き抜けや家具の配置で圧迫感が出ないようにしている。	1ユニットが2フロアーに分かれた形で2ユニットを形成し、リビングは夫々の1ブロックに在る。夫々が和風らしく、洋風らしくの工夫を凝らした設えで、開設して2年の時間が落ち着き感を創り出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファーや食席の配置には日々配慮している。ひとりになれたり、入居者同士が語り合う場所も確保できているが、今後も改善が必要である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者には自宅で使っていた馴染みの物を持参して頂くよう働きかけている。テレビや仏壇、場合によっては、畳に布団といった希望にも対応し、心地良く生活できる支援をしていきたい。	街中に在って広さ十分とは言えないが、夫々の持ち込み品や飾りで、その人らしい暮らしの空間が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりに合わせた支援を行ない、個々の力を活かした安全な環境を作る為に、手摺りや福祉用具の活用をしている。安全に配慮しながら、入居者が自分でできることは極力自分でして頂けるように努めている。		